



大田区自然観察路  
川と干潟のみち

発行 平成22年3月

発行者 大田区環境清掃部環境保全課  
03-5744-1365

制作 ドリスジャパン株式会社



大田区自然観察路

川と干潟のみち

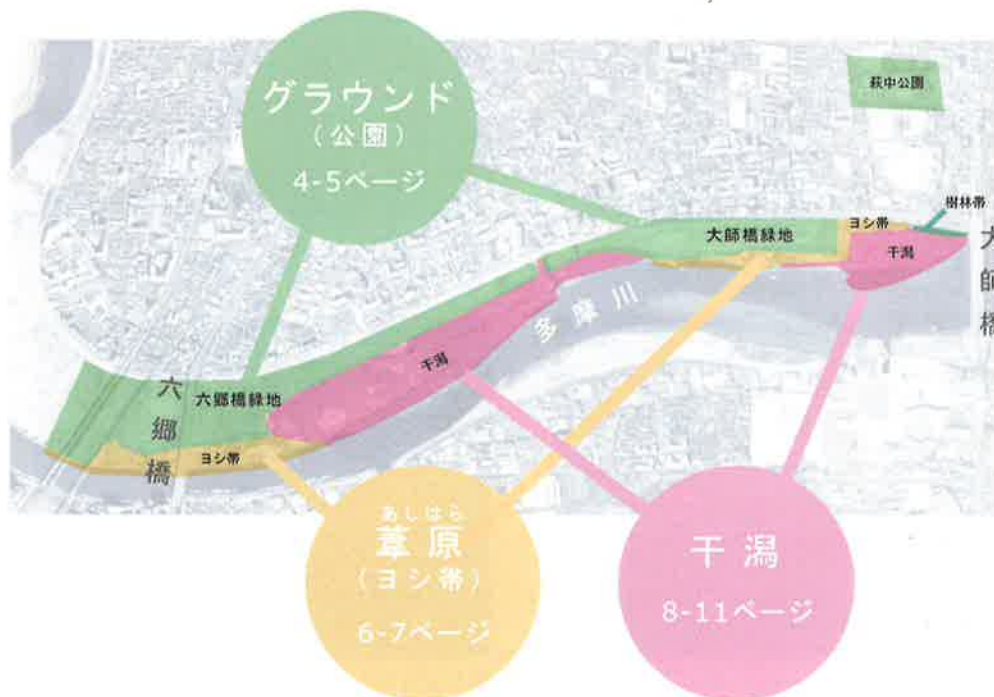
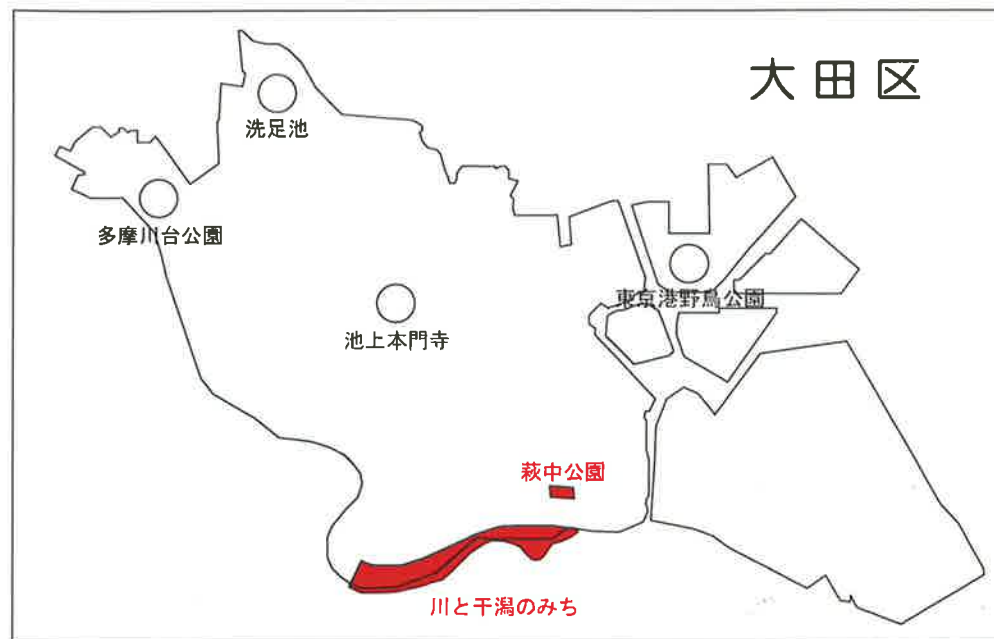
## 「川と干潟のみち」の生き物たち

私たちが住む大田区を流れる多摩川は山梨県の笠取山に源流がある川で、その水は人間だけでなく多くの生き物をはぐくみ、流域にはたくさんの生き物が生息しています。高度経済成長期には私たち人間が流す排水のために水質が悪化し、生き物も少なくなりましたが、近年は環境保護への意識がたかまってさまざまな工夫がおこなわれ、多くの生き物が戻ってきています。

「川と干潟のみち」は、六郷橋の東側にひろがる多摩川河川敷と大師橋付近の干潟を観察することができる自然観察路として、これまで多くの人に愛されてきました。ここは都内では少なくなってしまった自然環境が残されている貴重な場所です。大田区内を流れる多摩川は河口が近いために淡水と海水が混じり合う汽水域となっているので、より複雑で多様な生態系を作りだしています。

大田区では過去に何度か自然環境調査を実施していますが、最後の調査から13年の月日が経過しているため、このたび新たに「川と干潟のみち」で生物調査を実施しました。

このパンフレットでは、調査で確認された生き物たちを生息環境別に紹介しています。多摩川に遊びに行く際にはこのパンフレットを片手に、生き物を探しながら自然散策を楽しんでみてください。



# グラウンド

六郷橋から大師橋のあいだには、区民の皆さんが走ったり野球をしたりできるグラウンドや芝生の緑地が整備されています。こんなところに生き物はいるのだろうかと思われるかもしれませんが、よくみると意外にいろいろな生き物を見ることができます。人がよくふみつけるところと、あまりふまれないところでは生息している生き物がちがうこともわかります。



カタバミ



オオイヌノフグリ



シロツメクサ



モンシロチョウ



カラスの仲間の巣



ツグミ



ベニシジミ



ケラ

# 葦原（ヨシ帯）

グラウンドと多摩川のあいだには、広大なヨシの草原（葦原）が広がっています。ヨシが生えているところは根元に砂や泥がたまり小さな動物たちの隠れ場になるため、たくさんの生き物が集まってきます。



ヨシ



カワラヒワ



ミジンマイマイ



ウスカワマイマイ



クロベンケイガニ



アシハラガニ



マメコガネ



ナミザトウムシ

# 干潟（陸上）

多摩川にかかる大師橋の近くには干潟があり、汽水域を好む植物がみられます。また砂地に穴を掘ってくらしているカニ類やゴカイ類など小さな動物と、それを食べにやってくる水鳥をたくさんみることができます。



イ



カワウ



バン



オオバン



エゾウキヤガラ



ヤマトオサガニとトビハゼ



チゴガニ



ユリカモメ

# 干潟（水中）

汽水域に生息する魚類が多くみられます。また、ボラなど海の魚でも、子供のときは外敵がすくなくおだやかな汽水域で生活します。シジミをはじめとする二枚貝は水の浄化におおきな役割をになっている大切な生き物です。



コメツキガニ



タカノケフサイソガニ



ソトオリガイ



カワザンショウガイの仲間



カワゴカイの仲間



テッポウエビの仲間



ボラ



アベハゼ



ヤマトシジミ

## 貴重な生き物たち

もともとその場所にすんでいたのに、環境の変化によって数がすくなくなったり、絶滅してしまう生き物があります。環境省では「絶滅のおそれのある野生生物種のリスト（レッドリスト）」をつくり、また東京都も「東京都の保護上重要な野生生物種」を定めて貴重な生き物を大切にすよう呼びかけています。

多摩川では貴重な生き物たちの姿をたくさんみることができます。どんな生き物も、かならず人間のくらしとかかわりを持っています。貴重な生き物たちの様子に注意して、かれらが住みやすい環境であるように工夫をすることは、私たちの生活をよりよくすることに直接つながることになります。



クマゼミ



青空を舞うトビ



ミノボロ



カワヂシャ



アオモンイトトンボ



セイタカシギ



クロスジギンヤンマ



コアジサシ



ミシシippアカミミガメ

# 外来生物

日本にはほんらいいないはずなのに、人間の手に日本に持ちこまれた海外の生物が野生化してしまった生き物（外来種）がいます。意図して日本に運んでしまうこともあれば、そうなるとは想像できずに持ちこんでしまうこともあります。

天敵がいっしょに運ばれることはほとんどないので、近くに食べられるものがあると、その生き物は短いあいだに爆発的に増えて、むかしから日本で暮らしていた生き物の命や暮らしをおびやかしてしまいます。そして日本に住んでいる私たち人間のくらしも、同じようにおびやかされることになってしまいます。

外来種のなかでもとくに気をつけなければならないものは、環境省が「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（外来生物法）」で特定外来生物（規制の対象）や要注意外来生物（規制の対象にはならないが取り扱いに注意が必要な生物）に指定して注意をうながしています。川と干潟のみちにも、むかしの日本にはいなかったはずの生き物がたくさん住みついています。ほんらい海外に住んでいる生き物を飼っているときは、川や草地に放さないように気をつけなければいけません。



オオブタクサ



メリケンガヤツリ



アレチウリ



オオカワヂシャ



セイヨウタンポポ



アメリカネナシカズラ



イガイダマシ



コウロエンカワヒバリガイ